

# 道徳・特別活動研究委員会

## 1 研究テーマ

子どもが、道徳的価値に気づき、心をより深く見つめる道徳の授業はどうあったらよいか

## 2 研究内容

研究授業実施 平成22年11月17日（水）須坂市立相森中学校 3年3組

授業者 田邊雅彦教諭

主 題 名 祖父母への敬愛・家族愛 4-(6)

資 料 名 「一冊のノート」

### (1) 資料提示の工夫について

長い資料の内容を振り返ったり、本時のねらいにより迫りやすくしたりするために4枚の場面絵を活用することを考えた。美術科の先生にも協力していただき、温かい場面絵を描いていただき、生徒の意識をより高めることができた。

### (2) 中心発問について

「一冊のノートを読み、いたたまれなくなって外に出た僕の気持ち」について考えることを本時の中心とした。中心発問についてより深く考えることができるようにするために、父と話す際の「僕」の気持ちの「よくわかっているよ。」の部分と「だけど…」の部分とを十分に対比させて考えさせることが大切であると考えた。

### (3) 『心のノート』の効果的な活用について

終末、本時のねらいを明確に示しつつも、余韻をもって授業を終えることができるように、『心のノート』を教師が朗読して授業を終える展開を構想した。

## 3 研究の成果

### (1) 指導の実際

- ・事前に家族についてのアンケートを実施し、生徒の家族や祖父母に対する思いを把握した。また、読むだけで約10分かかる長い資料であったので、事前に資料を読んで感じたことを記入する時間を設け、生徒のそれぞれの思い（内容項目から見た生徒の実態）を授業に生かすことができるように考えた。
- ・祖父母などへの思いを語り合う場面で、普段から「何もやってくれない。」という不満を抱えていたA生はそうした思いを表現してくれた。資料の中の「僕」の気持ちでいえば「だけど…」の方へより共感していた生徒であった。A生がこの時使った言葉は、適切だったとは言えないが、自分の内面を素直に語ってくれた。こうした生徒の思いを授業の中で位置づけていくことが必要である。授業の中で生かしていく上でも（その後の中心発問の場面でも言えたことである）、教師による問い返しが大切であり、また、その生徒の発言の裏にある思いを教師がいかにくみとっているかが重要となると感じた。その意味からも、事前アンケートや普段の生徒の生活の様子、生活ノートなどでの記述内容から「内容項目から見た生徒の実態」をいかにつかんでおくかが、今後益々重要になってくると思う。だからこそ、「道徳」の授業は基本的には学級担任が行っている意味がある。
- ・本時の中心的な価値である「家族愛」に迫るために、はたしてこの発問が有効であったかどうかは、その後の生徒の学習カードへの記入の姿や発言から見ることもできた。いたたまれなくなって外に出た時の僕の気持ちについて、「祖母への感謝の気持ち」として考えた生徒、「祖母に対する謝罪の気持ち」を表した生徒、「祖母に対するいたわりの気持ち」を表した生徒がいた。それぞれの思いに違いはあったが、生徒は十分に本時のねらう価値に迫ることができたと考えたい。先に述べたA